Ⅳ-8 沖縄

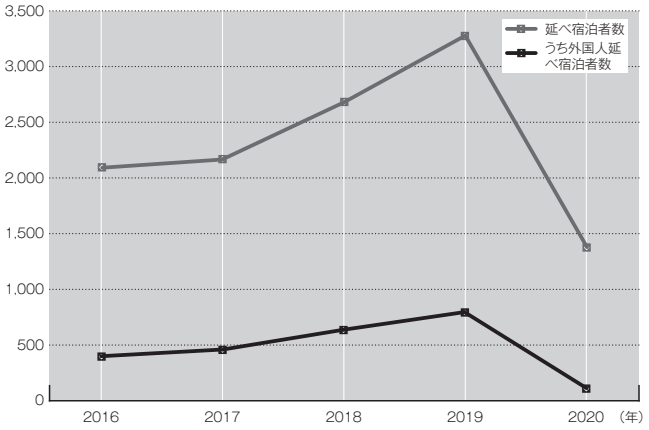
入域観光客数は373.7万人(暦年)で
2011年以来の減少に／
400万人を下回るのは23年ぶり

(1)都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると2020年1月～12月の沖縄の延べ宿泊者数は1,379万人泊となり、前年比58.0%の大幅減(1,908万人泊減)となった(図Ⅳ-8-1)。

一方、外国人延べ宿泊者数は107万人泊となり、前年比86.3%減(669万人泊減)で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、延べ宿泊者数・外国人延べ宿泊者数ともに大幅な減少となった。

図Ⅳ-8-1　延べ宿泊者数の推移(沖縄)



(単位：万人泊)

	2016	2017	2018	2019	2020
延べ宿泊者数	2,063	2,169	2,679	3,287	1,379
うち外国人延べ宿泊者数	386	462	620	775	107

資料：観光庁「令和2年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

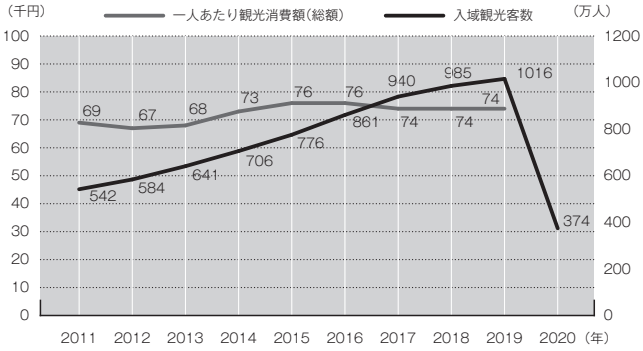
沖縄県が推計している「入域観光客数(含ビジネス客)」は、2020年(暦年)で373万7千人となり、前年比63.2%減(642.7万人減)と東日本大震災の影響を受けた2011年以来の前年比減を記録した。なお、入域観光客数が400万人を下回るのは、1997年以来23年ぶりのこととなる。(図Ⅳ-8-2)。

入域観光客数のうち、国内客は348万0千人(前年比51.9%減)、外国人客は25万7千人(同91.2%減)だった(図Ⅳ-8-3)。近年、外国人客比率は拡大傾向にあったが、2019年の外国人客比率28.8%に対して2020年は6.9%に留まった。

国内客は、1月は対前年同月を上回ったものの、3月以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて各月とも大幅に減少した。特に4月、5月は国や沖縄県から緊急事態宣言が発出された影響と、8月、9月は沖縄県から2度目の緊急事態宣言が発出された影響を受けて、前年を大きく下回る結果となった。一方外国人客は、1月下旬から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてクルーズ船の寄港キャンセルが相次ぎ、そのまま3月下旬からは全ての航空路線が運休したことによって、4月以降は皆減となった。

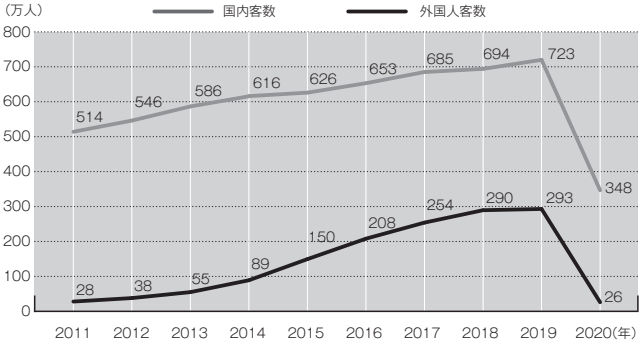
離島の動向をみると、沖縄県八重山事務所が公表している八重山地域の入域観光客数は、2020年(暦年)が65万2千人(前年比56.0%減)となった。一方、宮古島市が公表している宮古島の観光客数は44万1千人(前年比61.3%減)といずれも前年から大幅な減少となった。ただし、沖縄県全体の減少幅と比較すると、八重山地域はやや減少幅が小さく抑えられており、宮古島は県全体と同程度の減少幅となった。

図Ⅳ-8-2　入域観光客数と一人あたり観光消費額の推移



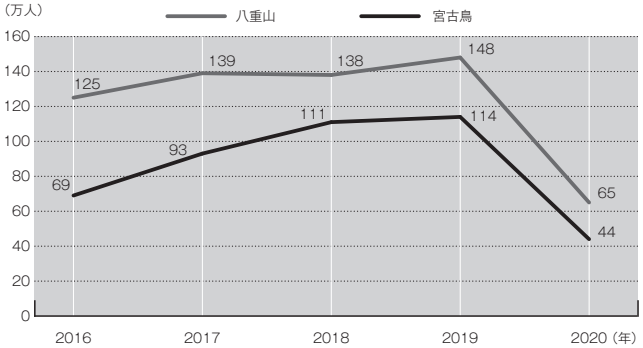
資料：沖縄県「観光統計実態調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-8-3　県外客数と外国人客数の推移



資料：「沖縄県入域観光客統計概況」をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-8-4　八重山地域及び宮古島の入域観光客数の推移



資料：沖縄県「八重山入域観光客数統計概況(推計)」及び宮古島市「宮古の入域観光客数」をもとに(公財)日本交通公社作成

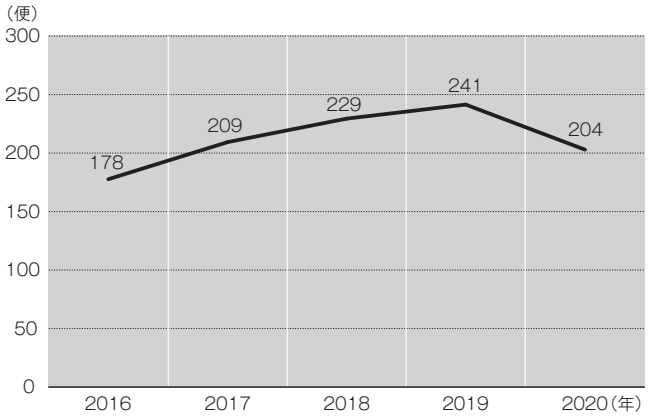
(2)観光地の主な動向

入域観光客数の拡大を受けて、近年、国際線の増便、宿泊施設及び商業施設等のオープンが相次いでいたが、2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、一部縮小や開業延期の動きがみられた。

●国際線の便数推移

調査月が異なるため単純比較はできないものの、2020年1月末日現在の那覇空港及び新石垣空港、下地島空港の週あたりの便数は204便で、前年（2019年6月1日現在）に比べ15.4％減（37便減）となった（図Ⅳ-8-5）。主な内訳は、台北63便（石垣便を含む）、香港42便（石垣便、下地島便を含む）、ソウル22便、上海21便、高雄18便などとなっている。2020年1月時点では新型コロナウイルス感染症拡大の影響をまだ強く受けていないため、減少は2019年時点での外国客増加幅の陰りが影響しているものと考えられる。中でも特に、ソウル便の減少数が大きくなった。

図Ⅳ-8-5　那覇空港、新石垣空港（南ぬ島石垣空港）及びみやこ下地島空港における国際線（直行便）の便数（週あたり）の推移



資料：沖縄県「観光要覧」をもとに（公財）日本交通公社作成
※2016年は8月1日、2017年から2019年は6月1日、2020年は1月末日現在の便数を掲載。
※提供座席数は主な使用機材より独自に推計したもの。使用機材の変更等により実際の提供座席数とは異なる可能性がある。

●宿泊施設の開業

2020年から2021年前半にかけてオープンした主な宿泊施設（名称変更等によるリニューアルオープンを含む）を表Ⅳ-8-1に示す。

2020年前半から7月にかけては那覇市内、那覇市以外の沖縄本島、そして離島を含めて多くの宿泊施設が開業したが、以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて国内客、外国人客ともに大幅に減少したこともあり、予定されていた施設の開業を延期する動きが一部で見られた。一方、2021年については開業を延期していた施設が改めて開業したものを含めて再び多くの宿泊施設が開業した。

特に那覇市内では、「東急ステイ沖縄那覇」（2020年2月）、「ホテルコレクティブ」（同年4月）、「ホテルストレータ那覇」（同年4月）、「ホテルWBF辻町」（同年12月）、「沖縄逸の彩 温泉リゾートホテル」（同年12月）、「ヒューイットリゾート那覇」（2021年7月）など、多くの大型ホテルが開業した他、2021年5月には星野リゾートによる県内5施設目となる宿泊施設「OMO5沖縄那覇」が開業した。

表Ⅳ-8-1　2020年から2021年前半にかけてオープンした主な宿泊施設

年月		宿泊施設名	所在地	室数
2020年	1月	グリーンリッチホテル沖縄名護	名護市	155室
	2月	東急ステイ沖縄那覇	那覇市	199室
	2月	ホテル アンテルーム 那覇	那覇市	126室
	2月	かりゆしコンドミニアムリゾート宮古島ふくぎステイズ	宮古島市	18室
	3月	レクー沖縄北谷スパ＆リゾート	北谷町	229室
	3月	アクアパレス北谷 by コルディオプレミアム	北谷町	24室
	4月	ホテル コレクティブ	那覇市	260室
	4月	ホテル ストレータ 那覇	那覇市	221室
	5月	ホテルピースアイランド名護	名護市	138室
	6月	Lalamare 古宇利	今帰仁村	16室
	6月	ルネッサンス リゾート オキナワ（リニューアル）	恩納村	377室
	7月	星のや沖縄	読谷村	100室
	7月	レクー沖縄北谷スパ＆リゾートプレミア	北谷町	48室
	7月	ヒルトン沖縄瀬底リゾート	本部町	298室
	7月	OKINAWA KARIYUSHI LCH. RESORT on The Beach	名護市	117室
	7月	THIRD石垣島	石垣市	28室
	7月	コンフォートホテル石垣島	石垣市	81室
	7月	星野リゾート リゾナーレ小浜島（リブランド）	竹富町	60室
	10月	ワイズイン那覇小禄駅前	那覇市	85室
	12月	ホテルWBF辻町	那覇市	278室
	12月	沖縄逸の彩 温泉リゾートホテル	那覇市	201室
2021年	1月	かりゆしコンドミニアムリゾート那覇 龍神ホテル浮島	那覇市	53室
	3月	Rakuten STAY 那覇美栄橋	那覇市	27室
	3月	HIYORI オーシャンリゾート沖縄	恩納村	203室
	3月	ホテル・トリフィート宮古島リゾート	宮古島市	207室
	3月	HOTEL R9 The Yard 宮古島	宮古島市	59室
	3月	ホテルグランビュー石垣新川	石垣市	61室
	4月	ネストホテル那覇久茂地	那覇市	120室
	4月	那覇クリスタルホテル	那覇市	105室
	4月	ホテル カクテルステイナハ	那覇市	100室
	4月	MBギャラリーチャタン by ザ・テラスホテルズ	北谷町	88室
	4月	oile by DSH Resorts	北谷町	44室
	5月	星野リゾート　OMO5沖縄那覇	那覇市	190室
	5月	U-MUI Forest Villa Okinawa	恩納村	18棟
	6月	ロワジール テラス&ヴィラズ古宇利	今帰仁村	44室
	6月	セントラルリゾート宮古島（リニューアル）	宮古島市	135室
	6月	たびのホテルlit 宮古島	宮古島市	111室
	7月	ヒューイットリゾート那覇	那覇市	331室
	7月	アウェイ沖縄古宇利島リゾート	今帰仁村	38室
	7月	One Suite THE GRAND	今帰仁村	22室
	7月	コンフォートイン那覇泊港（リブランド）	那覇市	117室

資料：新聞記事やホームページ等をもとに（公財）日本交通公社作成

●観光関連施設の開業

2020年から2021年前半にかけてオープンした主な商業施設・アミューズメント施設等を始めとした観光関連施設を表Ⅳ-8-2に示す。

2021年4月に供用開始となった「モータースポーツマルチフィールド沖縄」は、整備の総事業費は約6億9千万円。敷地面積は約2万平方メートルの沖縄市が設置した多目的施設。全国のさまざまなサーキットを参考に設計が行われたモータースポーツに特化した多目的コースで、中長期ビジョンとして本格的なサーキットの整備を目指す沖縄市にとって前段となる拠点整備となった。今後は、競技利用だけでなく、警察の技能訓練や交通安全教室など、幅広い用途での使用を想定している。

2021年6月に本格稼働となった「沖縄アリーナ」は県内最大となる1万人の観客を収容、施設内には510インチの大型ビジョンや60台のカメラで360度の全方向からの視点映像が見られる「4DREPLAY」など最先端設備が取り入れられた。沖縄市をホームタウンとするプロバスケットチーム「琉球ゴールデンキングス」のホームコートとして今後は定期的に試合が開催される他、音楽コンサートや展示会など様々な利用が行われる予定。なお、2022年1月のBリーグオールスターゲーム、2023年にはインドネシア、フィリピンと共催する「FIBAバスケットボールワールドカップ(W杯)」の予選ラウンドの開催が予定されている。

表Ⅳ-8-2　2020年から2021年前半にかけてオープンした主な観光関連施設・アミューズメント施設

年月	施設名	所在地	概要
2020年2月	国際通りのれん街	那覇市	国際通り沿いの商業施設に開業した飲食店32店舗が集積した施設。国際通りの賑わいに合わせて、祭りをイメージしたデザインとしている。
5月	DMMかりゆし水族館	豊見城市	最新の映像表現と空間演出を駆使した新しいカタチのエンターテインメント水族館。4月開業予定が新型コロナの影響で5月へ延期された。
5月	糸満市場いとま～る	糸満市	糸満市公設市場を立て替えた商業施設。鮮魚、精肉店など旧市場から移転した事業者に加え、雑貨店、飲食店など36店舗が入居。
5月	イオンタウン読谷座喜味	読谷村	マックスバリュ座喜味店を核店舗に全8テナントが出店。地元客向けの商業施設。
6月	アクロスプラザ小禄	那覇市	小禄ボウリング跡地に開業した地元客向け商業施設。ドラッグストア、フィットネス、インターネットカフェなどの8店舗が入居。アクロスプラザとしては古島駅前に続き2店目。
6月	イーアス沖縄豊崎	豊見城市	本島南部・豊見城市にオープンした大型複合商業施設。店舗面積4.3万㎡、駐車場台数3,100の建物に県内外から155のテナントが入る。
8月	サンエー石川シティ	うるま市	県内3番目に人口の多いうるま市に開業した地元客向け大型商業施設。サンエー直営店舗に加えて、家電量販店、ドラッグストア、レストラン等が入居。
2021年4月	モータースポーツマルチフィールド沖縄	沖縄市	モータースポーツ用の多目的コースで、県内のモータースポーツニーズに対応すべく、ジムカーナやドリフト、レーシングカート、ミニバイクなどの競技ができるようになっている。
6月	沖縄アリーナ「キングスホームコート」	沖縄市	県内最大の収容人数を誇る多目的アリーナ。スポーツイベントを始め、音楽イベント、展示会など様々な用途に利用可能。

資料：新聞記事やホームページ等をもとに(公財)日本交通公社作成

(3)国・地域別の月別入域数(平準化の状況)

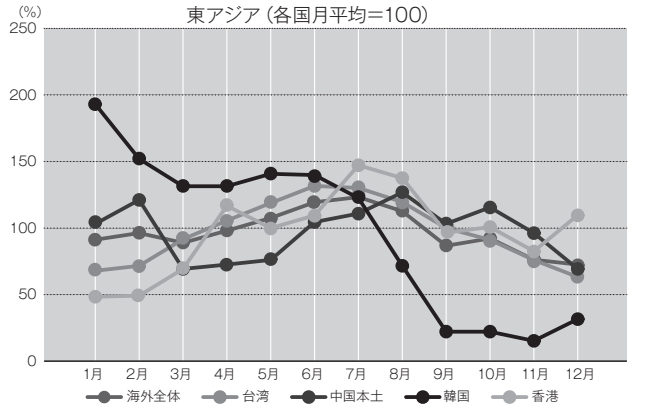
沖縄県では、現行・第5次沖縄県観光振興基本計画の中で、観光事業者の安定経営と観光従事者の安定的な職場環境確保を目的に、観光客受入における季節変動の平準化を図ることを掲げている。その中で、海の魅力を核とした従来の夏季の需要に加えて、陸域資源の活用や文化コンテンツの活用、さまざまなツーリズムの展開、イベント及び年中行事を活用し、オフシーズンの需要を喚起することに取り組んできたものの、2019年時点においても春休みおよび夏休み時期に観光客が集中する傾向は続いており、課題は解決されたとはいえない。

また、近年、入域観光客数は順調に拡大し、2019年には年間1,000万人の大台に達したものの、観光客一人当たり単価は伸び悩んでおり、結果として観光収入における計画目標値1.1兆円は未達成の状態が続いている。平均単価向上のためには現状の顧客層の滞在日数延伸や体験コンテンツへの誘導などで消費額を伸ばす必要がある一方、抜本的な対策としてより高単価の顧客層へ市場構成をシフトさせる必要がある。その際にも、特定の時期に観光客が偏ることがないよう、市場ごとの入域の傾向を捉え、繁忙期・閑散期における市場の上手な組み合わせを考えていくことが重要となってくる。

以下は、それらの検討においてベースとなるコロナ前の2019年の市場別入域客の年間変動をグラフで整理したものである。

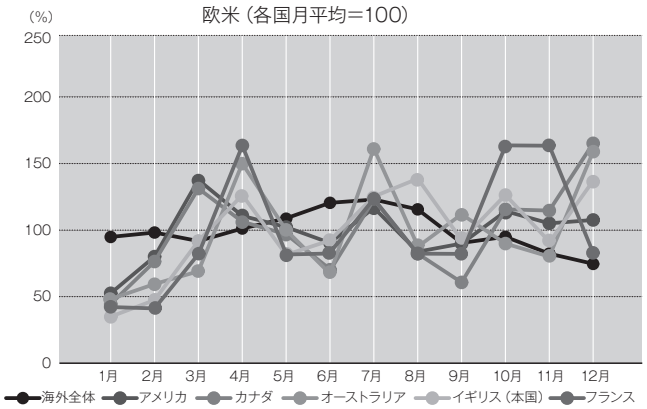
東アジア諸国では、2019年は韓国からの観光客が国内全体で後半に大幅に減少したものと沖縄への入域も同様の傾向を示しており、例年とは違った傾向であったことが考えられるが、それ以外の国・地域については、概ね夏季シーズンにピークが来ていることが分かる。一方、欧米諸国については、国によって春や夏にピークがあるケースも見られるが、12月・クリスマス休暇シーズンにピークが来ている国が多くなっている。東南アジア諸国については、シンガポール、マレーシアからの入域は夏季に減り、11～12月の年末の時期に非常に多くなっている。国内と海外全体を比べると、国内は3月・春休みに小さなピークがあり、8月・夏休みに最大のピークを迎えている。一方で海外は5～8月のグリーンシーズンに緩やかなピークを迎えており、一部の国でピークであった冬季については海外全体で見れば入域の少ない時期となっており、その時期に訪れやすい・かつ高単価が期待できる市場に効果的にアプローチが出来れば、観光客の集中を避けながら全体の消費単価向上にも寄与できるものと考えられる。

図Ⅳ-8-6　入域客の年間変動・東アジア



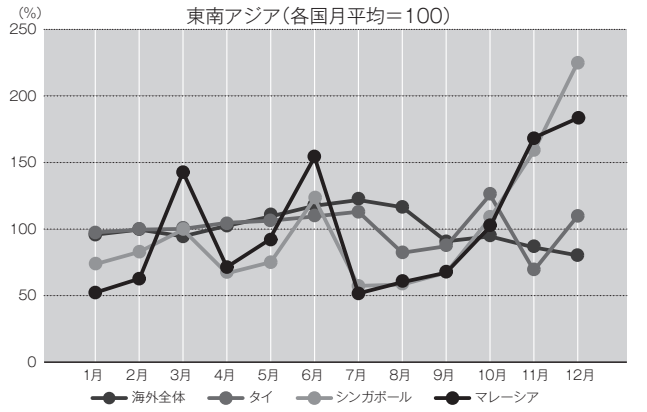
資料：沖縄県観光要覧をもとに（公財）日本交通公社作成

図Ⅳ-8-7　入域客の年間変動・欧米



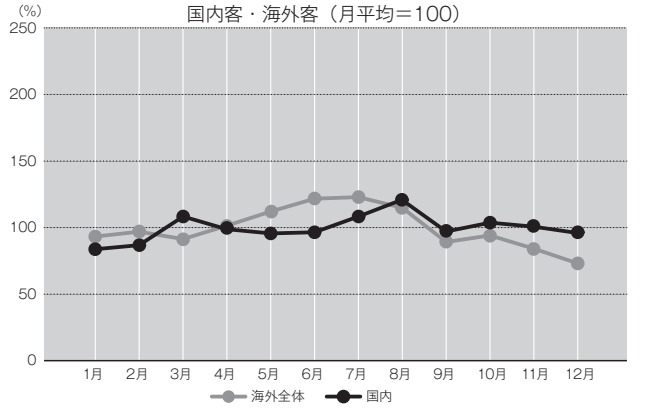
資料：沖縄県観光要覧をもとに（公財）日本交通公社作成

図Ⅳ-8-8　入域客の年間変動・東南アジア



資料：沖縄県観光要覧をもとに（公財）日本交通公社作成

図Ⅳ-8-9　入域客の年間変動（国内および海外全体）



資料：沖縄県観光要覧をもとに（公財）日本交通公社作成

(4)世界自然遺産登録

2021年7月26日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会は、「奄美大島、徳之島、沖縄県北部および西表島」（鹿児島県、沖縄県）の世界自然遺産への登録を決めた。対象となったのは鹿児島県の奄美大島と徳之島、沖縄県の沖縄本島と西表島の4島にまたがる計約4万3千ヘクタールで、イリオモテヤマネコ、アマミイシカワガエルなど貴重な動植物が多く生息する。日本政府は2017年に世界自然遺産候補として推薦していたが、ユネスコの諮問機関「国際自然保護連合（IUCN）」の登録延期勧告を受け、いったん推薦を取り下げての再挑戦となっていた。国内の自然遺産としては、2011年に登録された「小笠原諸島」（東京都）に続き、5件目の登録となる。

（中島 泰）